

都鳥の碑（下）

都鳥の碑文を書いた千種源ちぐさみなものありこと 有功は堂上公卿で、正三位千種有糸の次男、寛政九年十一月出生、兄有秀の跡をうけて家を継ぎ、左近衛中将正三位に任叙した。和歌にすぐれて四条派の画をよくし、洒落しやちやくな人柄であつて奇行が多い人物である。

碑文にはつぎのように刻まれている。

表面

隅田川は、むさしと下つふさの國の界なり、陸奥に往きかふ道にあたる所を、春日部のうまやといふ、在原中将の、いざこととはん 都鳥とよめりし跡ながら、ふちとかはりて、今は小川となり、むかしのわたりは岡となりしが、元弘の年さが美の國鶴岡の銀杏の一枝飛び来りて、ひとよのほどにおひたりけり、其の神木のもとに、鎮りいます神のみいずの、いやましに幸ひ給へるみやしろのあたりぞ、いざ舟にのれと言けん昔の名残なりけらし

正三位 有功

とはれつる あとだにとめよ 都鳥

むかしは 遠きわたりなりとも神垣にたてる ひと木をためしにて 千々にさかえん 春日部の里

裏面

新方四十余郷惣社春日部八幡宮は 旧領主 かすかべじぶしやうゆときかた 春日部治部少輔時賢主 隅田川の岡に造立せられたる所なり

こたび千種殿に乞い奉りて 詠歌を碑面に彫刻す 又放生会再興の為に高田貳反五畝三步を寄附して 永世に伝ふる者なり

嘉永六年五月立

放生祭事いははら住る人々

関根八郎 早川助三郎

植村平兵衛 山崎次助

山口萬藏 山口長次郎

田村新藏 大里兵藏

金子七右衛門 植村久兵衛

早川与兵衛 植村喜七

増田八郎兵衛 斉藤新八

隅田弥次兵衛 後藤伝六

青木長内 田嶋五郎兵衛

鈴木権左衛門 近藤十兵衛

村田孫市 加藤伊平次

村田源次郎 関根紋左衛門

村田喜三郎 大里茂七

内藤甚五右衛門 濱野嘉平次

根岸喜太郎 関田十内

この碑を建立した名主次郎兵衛孝瀬は歴史を研究、また書をよくし、粕壁宿近郷にも次郎兵衛の書いた碑文が散見される。次郎兵衛の子八郎孝純もまた歴史、書を好み多くの事績を残している。

春日部八幡神社の境内にはこの「都鳥の碑」のほかに、拝殿の右側の小高い所に高さ約二^尺、幅約一・五^尺程の自然石の石絵馬が奉納されている。市内でも珍しい碑である。碑文もやはり次郎兵衛孝瀬の書であり、つぎのように刻まれている。

春之日乃野農部之 母里能下草爾不整 駒毛睦志九古曾

安政三年十一月晦七十三翁孝瀬 志主 青木三吉

* * *

「春日部市史」近世資料編^{※1}が発刊されます。

内容は粕壁宿名主の公用日記などです。お申し込みは市史編さん室（電話^①六四四二番）まで^{※2}。

初出「広報かすかべ 昭和五十五年二月」かすかべの歴史余話

※1 昭和五十五年発行。

※2 掲載当時のまま作成しました。市史編さん室は、春日部市教育センターで活動しております。（平成二

十八年十月現在）